

## 建部大社

建部大社は滋賀県でたいへん重要な神社です。この神社は瀬田川の東側にあり、8世紀にまで遡ります。滋賀県の一之宮（第一位の神社）に指定されており、少なくとも平安時代（794～1185）以降この特別な地位を保っています。

建部大社は、西暦紀元 72 年に生まれ 114 年に亡くなったと伝えられる武勇に長けた伝説的な皇子、ヤマトタケルを祀っています。ヤマトタケルは日本で最も人気の高い民間伝承の英雄の一人で、日本の皇位の象徴の一つになっている魔法の武器、草薙剣を使いこなしたといわれています。ヤマトタケルを祀る神社は日本全国にたくさんありますが、建部大社はその最古の一つです。

両側を杉の木立に囲まれた長い砂利道が、鳥居からひっそりした境内を通って本殿へとつながっています。入り口近くには、神社に入る前に手と口を清めるための水鉢である、手水舎があります。建部大社の水鉢は、手を洗う際に音楽が流れます。

本殿の前に杉の木が 3 本まとまって立っています。この 3 本の木は神社のシンボルで、神聖なものとみなされています。本殿の両側には小さな社が 8 つ並んでいます。別々の神格を祀るこれらの社はヤマトタケル社を補完するように配置されており、あたかも皇子の従者の一部であるかのようです。これらの建物の隣りには小さな池があり、鯉が泳いでいます。

建部大社には宝物殿があり、平安時代に制作された神道の神の像が収められています。古代の制作物が重要文化財に指定されています。神輿（持ち運びできる社）も展示されており、年に一度、8 月 17 日に行われる船幸祭で実際に使用されます。